

講師コメント

講義への感想を読みました。熱心に聞いてもらえたことがわかり、うれしいです。

「2000年選挙の誤報」と「詳しく質問する出口調査」の2点に感想が集中していたようなので、簡単にコメントしておきます。

①開票速報の誤報

アメリカのメディアの重大な問題です。メディアの基本である速報と真実の両方を満たすことができなかつたわけですからね。

講義では、触れませんでしたでしたが、AP通信は第二の誤報（ブッシュがフロリダを制し、当選した）を流しませんでした。テレビが次々に誤報を流し、候補者本人まで信じた中で、独自の分析と判断で「結果はまだわからない」との立場を変えませんでした。同じ開票の数字を同時に手にしていたが、テレビとは違う判断をしたわけです。

結果として、アメリカの各テレビは信用を落とし、APへの信頼は高まりました。やはり、報道にあたるものは確実な根拠のないことを伝えてはならないという教訓です。

2004年の選挙では2000年の反省があったせいか、開票速報は慎重だったと思います。今年はどうなるでしょうか。注目が高いほど、より早く「当選」を打ちたくなるものです。

日本のメディアがアメリカ大統領選を報道する時も、2004年はより慎重になりました。

「誤報」で読者の信頼を失えば、メディアの自滅です。でも、競争相手のほかのメディアがどこも一斉に「A候補の当選」と流した場合、「まだわからない」と言い続けるのはとても難しいことでもあります。

学生のみなさんも、ひとつのメディアだけでなく、複数のメディアを比較して、違いを見分けると、おもしろいし、メディア・リテラシーも高まると思います。

②出口調査

これだけ詳しい出口調査は、アメリカの文化のひとつだといってもいいと思います。

詳しい質問項目を考え出し、投票した人は丁寧に答え、それを短時間で集計して分析できる。これが定着している社会は、なかなかすごいと思います。少なくとも、答えるほうは、自分が保守か、リベラルか、あるいは穏健か、明確な自己認識を持っているわけです。「わからない」なんて答える人はいない。「個人情報だから答えない」という人もいるかもしれないけれど、いまのところは、出口調査は成立し、貴重なデータとして利用されています。

さらにすごいのは、出口調査の内容はすぐに、ウェブサイトに出ることです。今年の予備選でも、投票終了とほぼ同時にその州の出口調査が公表されました。東京にいてもリアルタイムで見れます。

CNNや米メディアのサイトを探せば、見つかるので、興味のある方はぜひ、調べてください。研究論文を山ほど書けると思います。

以上です。